

PRESS RELEASE
2015/10/21



Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2016

第8回恵比寿映像祭
動いている庭
Garden in Movement



平成 28 年 2 月 11 日 (木・祝) - 2 月 20 日 (土)
[会期中無休]

会場 | ザ・ガーデンホール、ザ・ガーデンルーム、恵比寿ガーデンシネマ、
日仏会館、STUDIO38、恵比寿ガーデンプレイスセンター広場 ほか

東京都写真美術館

開催概要 |

恵比寿映像祭は、現代美術や劇映画、実験映画やビデオ・アート、ドキュメンタリー、自主制作映画、メディアアートのほか、ダンスや演劇、音楽など、幅広いジャンルを横断的に紹介してきたアートと映像のフェスティバルで、今回で第8回目を迎えます。

東京都写真美術館の改修工事による休館に伴い、昨年度と同様、ザ・ガーデンホールやザ・ガーデンルーム、ガーデンプレイスタワー棟38階アートスペース STUDIO38、日仏会館ほか、今年3月にオープンした恵比寿ガーデンシネマなどの複数会場に、テーマを体現する様々な作品を集め開催いたします。また恵比寿内の文化施設やギャラリーと連動し、地域に根差した地域連携プログラムを展開してまいります。

- [名称] 第8回恵比寿映像祭 動いている庭
Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2016
Garden in Movement
- [会期] 平成28年2月11日(木・祝)～2月20日(土) [10日間・会期中無休]
- [時間] 10時～20時(最終日は18時まで)
- [会場] ザ・ガーデンホール、ザ・ガーデンルーム、恵比寿ガーデンシネマ、日仏会館、STUDIO38、
恵比寿ガーデンプレイスセンター広場 ほか
- [料金] 入場無料 ※定員制の上映プログラム、イベント等については一部有料
- [主催] 東京都／東京都写真美術館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)／
日本経済新聞社
- [共催] サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館
- [後援] J-WAVE 81.3FM
- [協賛] 株式会社 資生堂／東京都写真美術館支援会員
- [寄付] 富士重工業株式会社
- [協力] KyotoDU／びあ株式会社／株式会社北山創造研究所／株式会社トリプルセブン・インタラクティブ
／株式会社ロボット
- [公式 HP] www.yebizo.com

恵比寿映像祭について |

恵比寿映像祭とは年に一度、東京・恵比寿の地で、展示、上映、ライブ・イベント、トーク・セッション等を複合的に行い、映像分野における創造活動の活性化と優れた映像表現やメディアを、過去から現在、そして未来へといかに継承し発展させていくかという課題について、あらためて問い直し、対話を重ね、広く共有する場となることを目指す、ユニークなフェスティバルです。

テーマ |

動いている庭 Garden in Movement

災害や開発などにより、人間をとりまく自然環境が刻々と変化している現在、人と自然との新しい関係性をいかに見いだすかが問われています。

こうした人と自然の関係を古来より結び続けてきた技術に庭があります。庭とは、一定の枠組みのなかに植物などを配した、人間の想像力がうみだす空間芸術であると同時に、自然の創出力によって作りだされるものです。フランスの思想家・庭師であるジル・クレマンは、荒地における植物のふるまいをモデルケースに、「動いている庭」に人と自然のあり方を見いだしました。そこでは、人間のみが中心なのではなく、むしろ自然がつくりあげていく世界像が描かれています。

第8回恵比寿映像祭では、この「動いている庭」というコンセプトを出発点とし、現代社会を、日々変容する庭ととらえ直します。さまざまな映像作品やメディア表現を通じ、文字どおりの自然のみならず、人間がうみだしたテクノロジーやめまぐるしく変化する都市環境、不可視のネットワーク社会などといった、現代社会における自然というべき事象が、今日的なヴィジョンとして立ち現れてくるでしょう。人間中心ではなく、むしろ自然とともに作りあげていく世界像とは？—「動いている庭」という庭の新しい解釈を手掛かりに、人間をとりまく自然に目を向けながら、現代のイメージ世界を旅してゆきます。

〈荒地とは、人間の力が自然の前に屈したことを示すものだった。

けれども違う見かたをしてみればどうだろう？〉¹

—ジル・クレマン²

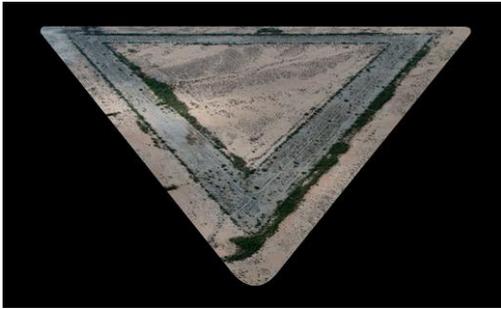
¹ ジル・クレマン『動いている庭：谷の庭から惑星という庭へ』山内朋樹訳、みすず書房、2015年

² 1943年フランス、クルーズ生まれ。庭師、修景家、思想家。植物にとどまらず生物全般についての造詣も深い。今回の恵比寿映像祭テーマ「動いている庭」は、同名タイトルの著書(Gilles Clément, *Le Jardin en mouvement*, Paris, Pandora, 1991.)より引用されている。

出品予定作家 |

ジャナーン・アル=アーニ

Jananne AL-ANI



1966年キルクーク(イラク)生まれ、ロンドン(イギリス)在住。1997年、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートの写真学科で修士号を取得。写真、ビデオ、フィルム作品を手掛ける。2005年にテート・ブリテン、2014年にヘイワード・ギャラリー(以上、ロンドン)で個展を開催。イギリスを中心に、数々の国際展に参加している。

<http://www.janannealani.net>

ジャナーン・アル=アーニ《グラウンドワークスⅢ》2013年
Jananne AL-ANI, *Groundworks III*, 2013

ビサネ・アル・シャリフ&モハマド・オムラン

Bissane AL CHARIF & Mohamad OMRAN

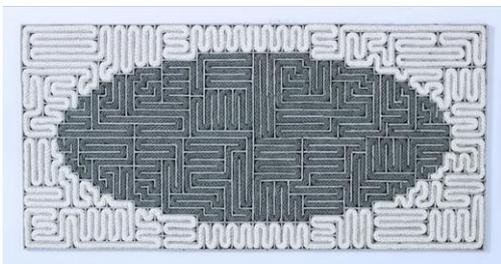


1977年パリ(フランス)生まれ/1979年ダマスカス(シリア)生まれ、パリ在住。ビサネ・アル・シャリフは、舞台美術家、建築家。シリアで建築を、フランスで考古学と舞台装置デザインを学び、演劇や映画のセットデザイナーとして活動。近年は、双方向的な演劇やインスタレーション、映像制作などマルチな活動を展開している。パートナーのモハマド・オムランはシリア出身の彫刻家。実際に破壊されたシリアの町を、インスタレーションで再現するプロジェクトを共同で行った。

ビサネ・アル・シャリフ&モハマド・オムラン《空を失くして》2014年
Bissane AL CHARIF & Mohamad OMRAN, *Sans Ciel (Without Sky)*, 2014

ピョトル・ボサツキ

Piotr BOSACKI



1977年ポズナニ(ポーランド)生まれ、在住。ポズナニ美術アカデミー卒業。作曲、文学的な文章、ドローイングや立体制作、アニメーション、インスタレーションなど多岐にわたる表現方法を用いながら、独特なユーモアと哲学的な思考に形をあたえる。2015年、ウヤズドフスキ城現代美術センター(ワルシャワ)で、大規模な個展を開催。

ピョトル・ボサツキ《ラビリンス・フィルム》2014年
Piotr BOSACKI, *Labyrinth Film*, 2014 Courtesy Stereo Gallery, Warsaw

クリス・チョン・チャン・ファイ
Chris CHONG Chan Fui



1972年コタキナバル(マレーシア)生まれ、クアラルンプール在住。高い評価を受けた代表的短編作品《ブロック B》(2008)や長編映画《カラオケ》(2009)、横浜黄金町で滞在制作した6面インスタレーション《HEVENHELL》(2009)などの映像作品に加え、近作ではドローイングや写真、インスタレーションを手掛けている。

<http://www.chongchanfui.com/>

クリス・チョン・チャン・ファイ《END74 Pholidota sigmatochilus》「固有種」シリーズより、2015年

Chris CHONG Chan Fui, *END74 Pholidota sigmatochilus*, from "Endemic" series, 2015

銅金裕司
DOGANE Yuji

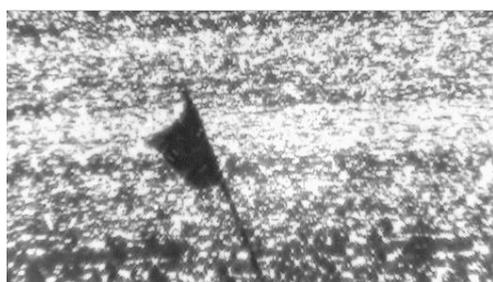


1957年神戸市生まれ。海洋学を修めた後、園芸学、植物生理学からアーティストに向かう。バイオアーティスト。京都造形芸術大学教授。脱領域的な試みに挑戦し、美術館、ギャラリー等でバイオアートの展示、ワークショップ多数。主な展覧会に「サイレント・ダイアログ」(ICC、2007)、個展「生と死の半分あるいは“manuality”」(art space kimura ASK?, 2008)など。

銅金裕司《ラディオアクティブ・プラントロン/シンプル・インターアクション》(ロスキレ現代美術館、デンマークにて)2011年[参考図版]

DOGANE Yuji, *radioactive PLANTRON/ Simple INTERACTIONS*, at Contemporary Museum of Art Roskilde, Denmark, 2011 [reference image]

葉山嶺
HAYAMA Rei



1987年神奈川県生まれ、在住。多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科在学中より、映像作品の発表を行う。野生動物と関わりの深かった幼少期の記憶が、作品制作の重要な動機だという。2010年、25 FPS 国際実験映画映像祭(クロアチア)にて Fuji award 受賞。ロッテルダム(オランダ)、アナーバー(アメリカ)などの国際映画祭ほか、音楽祭、美術館等で上映や展示を行う。

<http://reihayama.net/>

葉山嶺《土地からやってくる、ある小ささ》2015年

HAYAMA Rei, *SOME SMALLNESS COMING FROM LAND*, 2015

平井優子＋山内朋樹＋古館健

HIRAI Yuko＋YAMAUCHI Tomoki＋FURUDATE Ken



平井優子 HIRAI Yuko

日本女子体育短期大学、CDC トゥルーズ(フランス)でダンス、振付を学ぶ。珍しいキノコ舞踊団など数々の客演を経て、2001年よりダムタイプメンバーとなる。高谷史郎、藤本隆行らとのコラボレーション作品に参加する他、音楽家とのデュオシリーズを展開。自身の演出作品《愛について語る時に我々の語ること》(2013)、《猿婿・The face of strangers》(2014)など。

山内朋樹 YAMAUCHI Tomoki

1978年兵庫県生まれ、滋賀県在住。美学・庭園史研究、庭師。現代ヨーロッパの庭や修景をかたちづくる思想と実践を考察しつつ、その源泉を近現代の庭園史に探っている。また、在学中に庭師をはじめ、研究の傍ら独立。京都を中心に庭をつくるほか、芸術活動を行う。現在、兵庫県立大学客員研究員および草木の使代表。

古館健 FURUDATE Ken

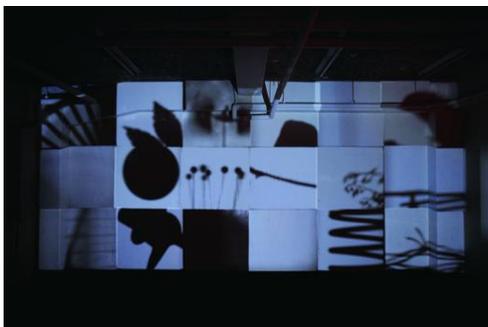
1981年神奈川県生まれ、京都府在住。岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー[IAMAS]卒業。コンピュータープログラミングをベースとして映像、音響、メカトロニクスなどを手掛ける。個人での活動のほか、2002年よりサウンドアートプロジェクト The SINE WAVE ORCHESTRA を主催。近年では主に高谷史郎のインスタレーション、パフォーマンスにてメディアオーサリングを担当。 <http://ekran.jp/anagma>

平井優子《猿婿・The face of strangers》2014年[参考図版]

HIRAI Yuko, *Sarumuko - The face of strangers*, 2014 [reference image]
Photo: Akiko Nogami

クワクボリョウタ

KUWAKUBO Ryota



1971年栃木県生まれ。アーティスト／情報科学芸術大学院大学[IAMAS]准教授。デジタルとアナログ、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる事象をクローズアップする作品によって、「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。《10番目の感傷(点・線・面)》(2010)以降、観る側の体験を紡ぎ出すような作品に着手している。

クワクボリョウタ《lost and found》2013年 協力:六甲山観光株式会社

KUWAKUBO Ryota, *lost and found*, 2013

Photo: Kiyotoshi Takashima

ロバート・ノース&アントワネット・デ・ヨング

Robert KNOTH & Antoinette DE JONG



1963年ロッテルダム生まれ／1964年ティルブルフ(オランダ)生まれ、ボルフハーレン(オランダ)在住。写真家ロバート・ノースと、ドキュメンタリー制作者のアントワネット・デ・ヨングの2人は、有害廃棄物、アフガニスタンのヘロイン取引、放射線による後遺症などの社会的なテーマを扱う写真・映像作品で国際的に知られる。近年は、より自主的で長期にわたるドキュメンタリーに取り組んでいる。

ロバート・ノース&アントワネット・デ・ヨング《木と土》2015年
Robert KNOTH & Antoinette DE JONG, *Tree and Soil*, 2015

中谷芙二子

NAKAYA Fujiko



北海道生まれ、東京都在住。1970年大阪万博のペプシ館で「霧の彫刻」を初めて制作、以降人工霧を使った霧環境、インスタレーション、公園設計、舞台作品等を世界各地で発表。1972年「ビデオひろば」の結成に参加し、自らもビデオ作品を発表。1980年に「ビデオギャラリーSCAN」を開設するなど、日本におけるビデオ・アートのパイオニアとしても知られる。

中谷芙二子《砂漠の霧微気象圏》(オーストラリア国立美術館・彫刻庭園、キャンベラ) [参考図版]
NAKAYA Fujiko, *Foggy Wake in a Desert*, Sculpture Garden, National Gallery of Australia, Canberra [reference image] Courtesy National Gallery of Australia

オリヴァー・レスラー

Oliver RESSLER



1970年クニッテルフェルト(オーストリア)生まれ、ウィーン在住。1989年から1995年まで、ウィーン応用芸術大学で学ぶ。美術家、映像作家。経済、民主主義、地球温暖化、抵抗運動や社会改革の形などを主題としたインスタレーション、公共プロジェクト、映像作品を手掛ける。世界各地で作品発表するほか、他のアーティストや学者とのコラボレーションも多い。

<http://www.ressler.at/category/projects/>

オリヴァー・レスラー《見えるもの、見えないもの》2014年
Oliver RESSLER, *The Visible and the Invisible*, 2014

ベン・ラッセル

Ben RUSSELL



1976年アメリカ生まれ。ロサンゼルスを拠点にアーティスト、キュレーターとして活動。歴史や映像記号論に深く関わる映画、インスタレーション、パフォーマンスを発表している。ポンピドゥーセンター(パリ)、シカゴ現代美術館(アメリカ)、ロッテルダム国際映画祭(オランダ)、ウェクスナー芸術センター(アメリカ)などで特集上映・個展が開催されている。

<http://www.dimeshow.com>

ベン・ラッセル《アトランティス》2014年
Ben RUSSELL, *Atlantis*, 2014

ビデオアース東京

Video Earth Tokyo



重森弘淹の招きによって東京総合写真専門学校講師となった中島興が、同校のゼミで1970年代初頭に結成した。当初重森に「幻想ゼミ」と呼ばれたが、中島は「理想ゼミ」と称し、写真ではなくビデオによって初めて扱えるテーマに取り組んだ。新幹線や電車等の公共空間に介入し、即興的な行為を記録する。その作品は、ケーブルテレビで放映された。

ビデオアース東京《橋の下から》1974年
Video Earth Tokyo, *Under A Bridge*, 1974

ジョウ・タオ

ZHOU Tao



1976年長沙(中国)生まれ、広州在住。近年はビデオや短編映画、ドローイングやテキスト、写真を用いたミクストメディアの作品を制作している。作品は第61回オーバーハウゼン国際短編映画祭(ドイツ)や第10回および第7回上海ビエンナーレなどで発表されている。

ジョウ・タオ《青と赤》2014年
ZHOU Tao, *Blue and Red*, 2014
Courtesy the artist and Vitamin Creative Space

会場構成 |

① ザ・ガーデンホール **展示** **ラウンジトーク**

東京都目黒区三田 1-13-2 恵比寿ガーデンプレイス内

② ザ・ガーデンルーム **イベント**

東京都目黒区三田 1-13-2 恵比寿ガーデンプレイス内

③ STUDIO38 **展示**東京都渋谷区恵比寿 4-20-3
恵比寿ガーデンプレイスタワー38F④ 恵比寿ガーデンプレイスセンター広場 **オフサイト展示**

東京都渋谷区恵比寿 4-20 恵比寿ガーデンプレイス内

⑤ 恵比寿ガーデンシネマ **上映**

東京都渋谷区恵比寿 4-20-2 恵比寿ガーデンプレイス内

⑥ 日仏会館ホール・ギャラリー **展示** **シンポジウム**

東京都渋谷区恵比寿 3-9-25

⑦ 地域連携プログラム／恵比寿地域文化施設およびギャラリーほか

公益財団法人日仏会館、NADiff a/p/a/r/t、MEM、G/P gallery、amu、waitingroom、
NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/ エイト]、伊東建築塾、MA2Gallery、
GALLERY 工房親、MuCuL スタジオ

【恵比寿映像祭に関するお問合せ】 恵比寿映像祭担当(東京都写真美術館): 栗栖(くりす)

※ 報道・媒体関係者様 のお問合せに限らせていただきます。

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-12 [東京都写真美術館リニューアル準備室]

電話:03-6206-9554 / ファクス:03-6206-9550 / e-mail:yebizo_press@syabi.com

【プレスに関するお問合せ】 恵比寿映像祭プレス担当: 平(たいら)、大西(おおにし)

電話:090-1149-1111(平) 090-9621-5235(大西) / ファクス:03-3468-8367 / e-mail: info@tmpress.jp

【広報用写真】 ※本リリースで使用している写真は広報用画像としてご用意しております。

①希望画像の作品名 ②貴媒体名 ③掲載予定時期を表記のうえ、上記のプレス担当者もしくは恵比寿映像祭担当者までご連絡くださいますようお願い申し上げます。